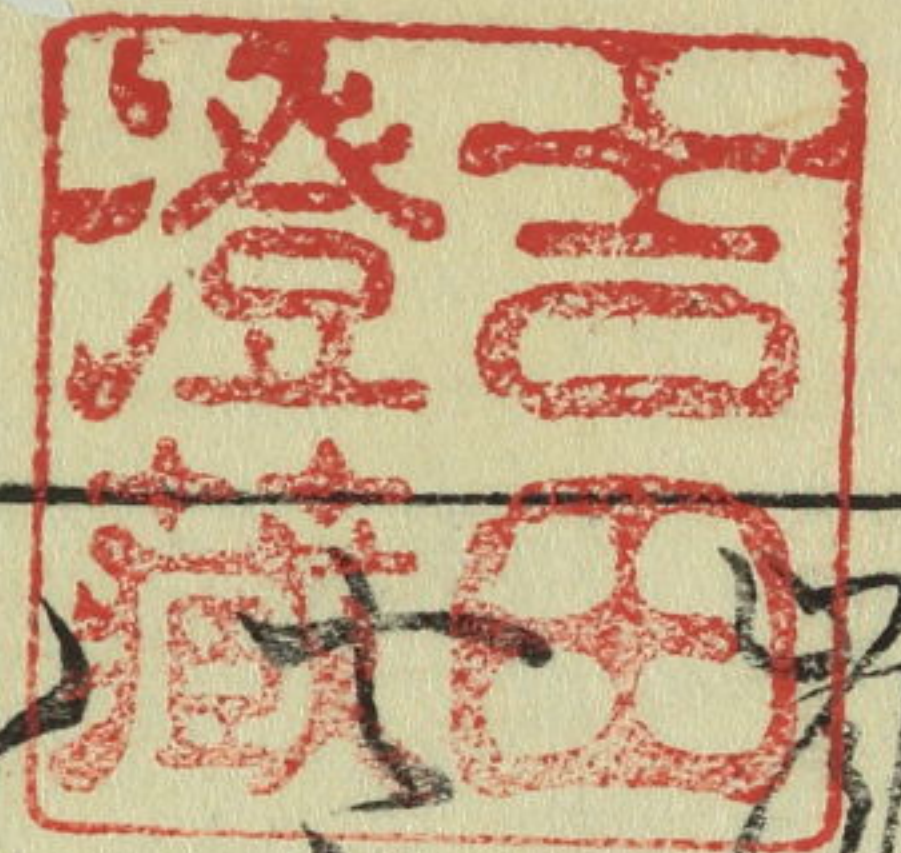


其電影明鳥 一夜四拜仙 極李
續明五 五車反古 苑之海

俳諧 蕪村七部集

書坊

懐諧格 玉仙仙玉 書堂書堂 園



Handwritten text in cursive style, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left. It appears to be a dedication or a preface related to the book on the opposite page.

業に
の著
えよ
よし
り
と

其
一

又
た
書
り
た
又



景文盤

景文盤

其興村の河乃せはよ謝名は密^{ヒシ}くつひ
 鮮^{アサ}と表の^{ヒシ}と好んてふよ表まきと鮮^{アサ}
 とらや^{ヒシ}は松明の人を^{ヒシ}しぐあき^{ヒシ}
 任^{ヒシ}るわし風雅に^{ヒシ}とよせきん^{ヒシ}と^{ヒシ}
 酒^{ヒシ}の^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}
 借^{ヒシ}て^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}
 は^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}
 芭^{ヒシ}蕉^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}と^{ヒシ}
 他^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}
 中^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}の^{ヒシ}

其雪影序

今や上侯伯下漢遊りて其くやて俳諧
せむもたれめ一さかう中よ「あまをもち」
採せらるる一とらきらちて思ひし京探の法三四
指とて度きつとていふもいふもいふも三四者の誰
凡主女と指と放やり主とてあ巴く菴庵の
口をきひてとて其真幸に假るのうとて
中つ巻に從よあつて其聲牙に化せしれと指
傍談年経とていふもいふもいふもいふも
きとつ小統の弁とていふもいふもいふも
きとつ小統の弁とていふもいふもいふも
きとつ小統の弁とていふもいふもいふも

主あるものあの人或きもて人持せ慈
のあつたあつと得ては剛と主流とわたり
こふあつて一流乃論つきとていふも
其子凡董小冊子を編して又の魂をまつ
其乃追善集つてわたりとていふも
ち對や青蓮の句とわたりとていふも
酸肉のあつと拾つて肉類繁雜組して佐
とつものあつと余曰はるる又又のあつ
周堂にこのあつとていふもいふも
とつものあつとていふもいふもいふも
はつとつとつとつとつとつとつとつとつ

右ツリヤ

蛙コリ込

うろつき

芭蕉翁



其者三

其まきく

ふ葉

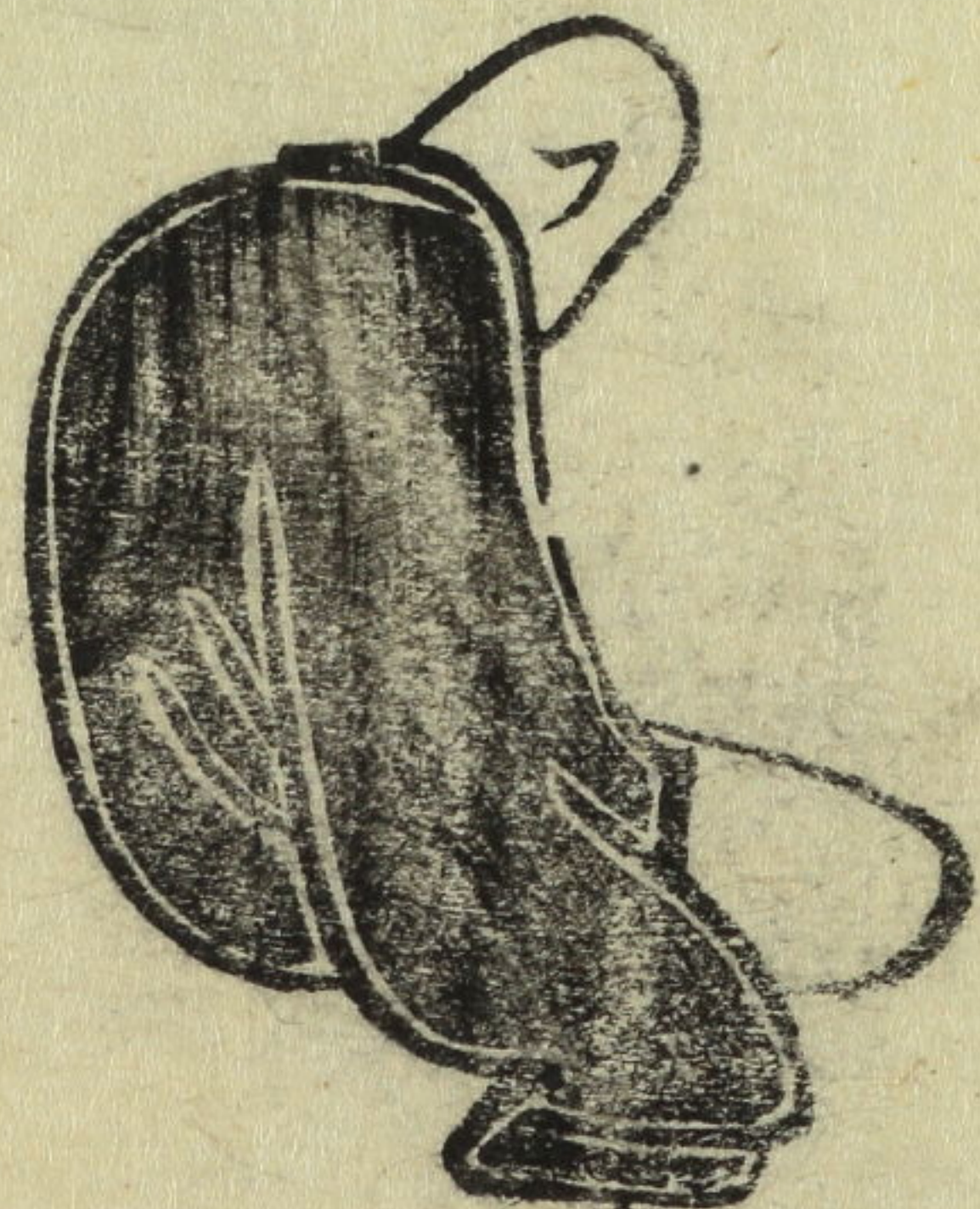
そのふくれ

名を

あつも

うら

雪中庵岩雪



郢月泉巴人後以巴人為菴号
更名宋阿別
号夜半亭

啼あゝゝ
門のこゝ
禪の
の歌
風乃こゝ 鹿忽
あゝて梅のふ



夜半亭蕪村画
門人高儿董書
高儿圭後更名
宋是号儿圭庵

共書

晋子雪平の蕉翁乃羽笑ふり晋子雪平
の巴人菴宋阿別のた石れ師の阿仲の又
先人の海ありふれ其ま縁の正まを
もて作す存す乃第一と好り
其のし肖像と写すまを乃まをけ
先人の旧名ありふれ其ま縁の正まを
まをけ又の志と其ま縁の正まを
しあり

儿董

少くも深く入り舟持の花
 隣つききり養う生 漁 几 董
 あき人のよききぬ 養ふ 漁 几 董
 舟中舟の庭ゆらせ 舟の 几 董
 うしこり隅にうしこり 几 董
 是後うしこり舟の事と 几 董
 花やうしこり 几 董
 三日やうしこり 几 董
 うしこり 几 董

好冬いこのの終も 笑きうわぬ 董
 る法は 徳めつて ころなり 曳
 且 鹿の 信りに なる あらむ 董
 聖なる 卒志乃 徳 養らぬ 曳
 録し 月事 一 一 天 氣を 董
 聖乃 乃 うらむら 娘 名 初 不 曳
 あらうり せ 携 け け 牛 じ ら 州 不 董
 祇 園 法 ころ 也 け け 曳
 新 了 といふ 系 巻 居 ても して け け 曳
 我 乃 修 名 二 合 年 午 董
 嘆 ころ 乃 周 に 禪 と 志 け け 曳

其雪 六

鹽 乃 うらむら 董
 花 の 乃 うらむら 董
 情 乃 あり 日 の 来 春 乃 董
 ち うらむら 雪 乃 あり け け 董
 ぬ 乃 うらむら 雪 乃 あり 董
 牛 解 乃 良 け け 董
 け け うらむら 雪 乃 あり 董
 うらむら 乃 月 も 恨 乃 あり 董
 うらむら 乃 枯 乃 あり 董
 け け 乃 終 の 乃 終 を 悔 乃 董
 居 乃 終 の 乃 終 を 悔 乃 董

ふれんかきし谷の白ゆに 董
まの中よりうき氣のゆらぎ 曳
校しきねとちりーの記二本 董
葉とちかき乃 耆乃七き日 執筆

久しげ月もあぐ成れきりか 藤村
秋よりうらり 鶴一 春 几董
やん洋醪醪漉賣もえりまじ 竹護
遠山よりく遠山傳し 村
新風に水主も鳥帽子とさるゆり 董

其書 七

日記も肩にちりうらり 護
空気のこけ下陰よる原より葉 村
魚群乃情を存せしてん 董
遠るものささくさこの作然坊 護
ふん華 終り了人津 八町 村
きやなり七らもやまきくわ 董
ふれ衣 清くかきけい 護
垂くら乃行さしめかえり 村
とーし大消くささのふれ月 董
俣やうう鳥もふ乃森へゆく 護
稻活の苦とも人京三空 村

用のみりハナ童乃見えろく
 虎瘡科乃小をそしきれ
 土佐船に光輝く鶴 院
 五日の風乃ころころまきこく
 かりけの干方うつら
 書紀も典目も放泰の作
 程とけつりつても又暮と冊
 乃ハ人質乃そもまきり
 一妻こころわさふを憐
 意弁トころゆる書乃衷
 ゆくたに月像まきわ千虎
 董 護 村 董 護 董 村 護 董 村 護 董 村 護

其雪

貧乏村千鹿と追入聲 村
 肌きくわ尚の疵氣撲てな 董
 乃ハ街ウ二人ヤまき 護
 長あ中益飯つ成にふ 村
 降ろくわく仕舞ハ専 董
 従ひも男の強つと旅くわ 護
 今予一慈ををゆめ人音 村
 正二代ちく色香けみく 馬南
 下くぬふくまき川 菅 執筆

巴又十三回懐昔

うしん

焼くよふさうじ

明和壬辰之冬

小子高儿董拜書

其雪九

か 神 紀 宗 宗

宗 宗

郭 云

山 出 一 ぬ 掛 川 ぬ ち ち 玉

一 ぬ 掛 川 ぬ ち ち 玉

右夏冬一紙西筆の及古ハ高子舎の
画中ニ藏一と今追善の後ニ録

春夏之部

あつれうそ 冷日のおちりしうか

燕村

おろしとや 山の中舟のたもと

几董

手合ふふ 暮るる影をうらな

子夷

山の中舟 序ふ 歌く 隣あり

為拾

伏見の山 眺む

あつれうそ 約につくまら水

移竹

五葉のよ ぼよ 家の中 ころん

几董

尻く ぬ日 ぬく ぬく 猶乃 色

旦尔

苦い ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

一角

うら ぬく ぬく ぬく ぬく ぬく

云々

出うつりのあきくみしりあきしり

太紙

暮春

ゆいふ力のまもろ口敷水

五律

日れちをほつこのまをまのり

斗文

うたわよ使之度やまろる

几董

あややうくみまもろあやう

朱英

るいしーあてしうま齊り

壺角

くつうと暖あま遊りんあき

牛行

りまや竹乃依うと成にり

鳥西

あやや一本に介強りりあき

百池

昔代やあつねえ神一橋のま

川童

即龍梅とくふりり

んりやきふろくあうあき

竹

ふにいふやふとさうりり

蕪相

ふうきや葉乃とさあま

馬南

瘦んりやあき飛のうふにこ

兒童

詩くみま口もあきあきん

九湖

ふいしやあきあきあき

南雅

あきあきあきあきあき

鼓舌

あきあきあきあきあき

三峽

あきあきあきあきあき

三四坊

あきあきあきあきあき

郭里

ちゆりや二とらとるえまより 下 栞居
盆もらうの衛ん社丹うり 嘯山

致社

蛇乃るえらうもせぬくうゆか 杜口
人あついと戸あつらん夏の日 鳥門
寐ふふらうたよの人う一ね後 和流
川下に寝ほもあつたあ蔬賣 光甫
毎年の長はるるやらつよ 三角
ちんりささ戸あつらん旭 春海
雪うりせつ行丈積ん五月 十拾
まきつてあつたあつた垣根 危足

其書 十三

醜よまの可也とやせん初終 沙月
うやりたの整くわらん 二人 水翁
ゆかしたちとあつたあ二美ふ 由福
曉乃一言わらわらん 名波
竹うきみりつてらん 維駒
蓬もあつたあつたあつた 羅雲
干綱り一帯のわらん 東武 泰里
栞の木や宮いあつたあつた 五律
葉知るるあつたあつた 青咲
小豆保賣うらあつたあつた 子叟
撞うぬの法出良も果て合款忌

けしきた月梅うらて白やも
郭へエ益のうりや寐入りり
ぬ乃水ささうりて田うく
西彦のサロうりお牡丹小
新日さうえ一團きし蓮うり
よりぬ乃月もはまや道のと
よも足も口も只在ぬ田植うり
灰汁桶の福も入うん更え
あも儀乃地ともあうやあう
ふりさうあも母ぬややしの家
うりちやぬいたきのね

自笑 鉄僧 几董 馬南 来爾 曲室 九湖 眞赤 几董 百池 うちま

古井やぬりあふ泉のき園し
古妻と盛にさくやひりた能
夕風一あさあさうぬやん
けり骨の紀うりうりやさう
さくさくさめりてるあし
こころや寝うり窓のぬりけ
さやさうりやり大筆さし麻入り
袋のま乃ぬり能うりさつた
能よは余のさうりさうり
日まもや一燦りたさし盛のさ
積多村のうりさと送りぬあ

徳村 竹護 眞英 如本 号嵐 明五 文皮 徳野 渡牛 飼丈 几董

紫垣乃さつろく物さるる暮きくみ 共 周末
夕さゆ中さう傘乃りひらく 下 栢延

聞悲

あつさつあつあつ 太 太祇

書意懶眠

あの同のあつあつあつあつ 燕 燕村

こつあつあつあつあつあつあつ 九 九董

あつあつあつあつあつあつあつ 素 素山

あつあつあつあつあつあつあつ 吸 吸眉

あつあつあつあつあつあつあつ 孤 孤相

あつあつあつあつあつあつあつ 儿 儿童

あつあつあつあつあつあつあつ 李 李琳
あつあつあつあつあつあつあつ 五 五始
あつあつあつあつあつあつあつ 風 風状
あつあつあつあつあつあつあつ 仙 仙鶴

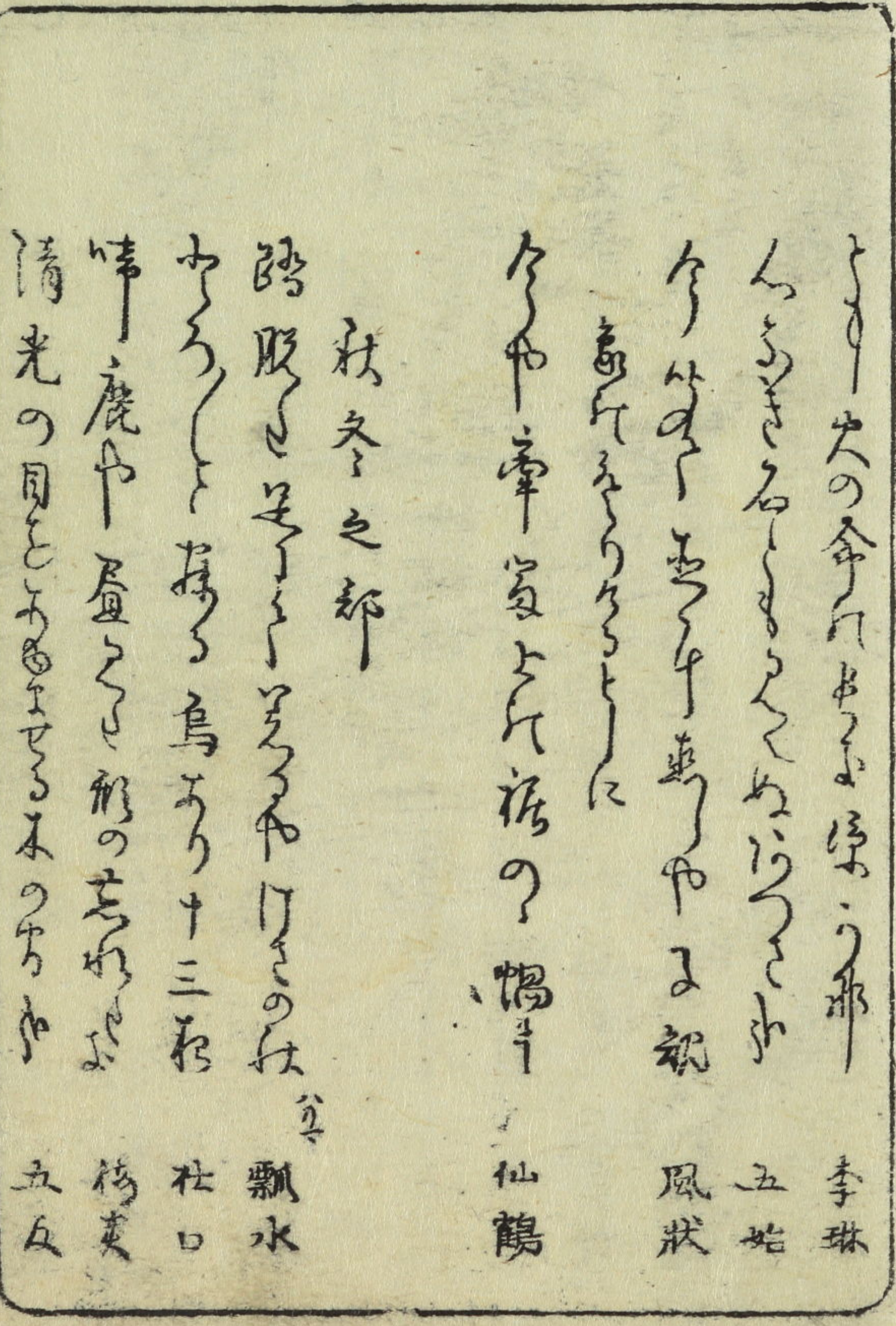
秋冬之部

あつあつあつあつあつあつあつ 飄 飄水

あつあつあつあつあつあつあつ 社 社口

あつあつあつあつあつあつあつ 傍 傍夷

あつあつあつあつあつあつあつ 五 五女



けりけりふ機減虫のむきまうりや
 光のけりけりけりけりけりけり
 竜の都を霧の海
 白き乃のりかや草乃丈十六
 曉の雷鳴おそけりけりけり
 ふあさつる金の蔓や今朝のけり
 けりけりけりけりけりけりけり
 双六の石もまじりけりけりけり
 市中

つらつらや隣りの敷もけりけり
 其雪 天
 儿董

秋のそら毎日ちりてけりけり
 けりけり人のけりけりけりけり
 竜のや嵐もつらけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけり
 そと乃のけりけりけりけりけり
 元山う角をと本朝やけりけり
 名乃乃燈売もももももももも
 酒買よ千里乃かやけりけり
 名乃乃追しけりけりけりけり
 名と追しけりけりけりけり

肅山
 雅因
 西遠
 季逃
 也好
 且尔
 訖子
 几董
 竹諺
 孤舟
 青咲

河能りや借火をそかしうくぬ
拈ふくくきり出する一うぬぬ
子曳 斗文

旅行快天

ちんぐの平よりぬのすけあを
おしり先へ辱しよ備うふ
馬南
おれおの凡乃よ後やきり
馬拾
えき乃おりよ成るおおゆ
五律
うらひよの世ひさのや夕一うぬ
太紙
天津風りよよとぬぬまらぬ
虹竹
ゆりおゆよとぬぬぬぬ配々
山笠
かりとぬぬし脊戸のうぬぬぬぬ
之房

夏瘦乃むくぬぬぬぬぬぬぬ
くつややふくくくくく牛車
三貫
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ
女
くくくくくくくくくくく
白麻
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆ
尾雪

飯の毒うらぬぬぬぬぬぬぬ
くくくくくくくくくくく

おもひおもひ

くわくくくく全飯乃膳のるぬ
吞獅
深拂くし深子能らぬゆ一奴
豆二
くくくくくくくくくくく
太紙

うらやふはと割くうくくか
 うく汁乃あはせしる様まんか
 背くハアツリ隣ハ巨龍ハ
 袴甲のまろこいあつふ衣ハ
 も後ろ一帯ゆるんの小もま
 みる形

望月存るふらうかーひもか
 虚サ後のおいひうちか
 一くもやまふりにくも
 冬あし閑寺細くゆ中ふ
 衣ま端一ませほろの巨龍ハ
 必化
 蕪村
 漆翁
 波光
 権序
 卯舟
 凡流
 斗沕
 几董
 竹袁

望月通の中ハ早ろーくれハ
 飯けや鶴ろくくくたき
 うくまや喰ぬ寝ふあつれま
 けまろくくくくは疵犯のど
 隠し子の幸負しる大龍ハ
 雪折ハ雪と湯くく冬の下
 戸はたろ森くくまやま
 母はまやるくくくくま
 唐の系統もろ乃ちハ
 牛のめやいも入中ハ
 くらんぬの何番にふらふ

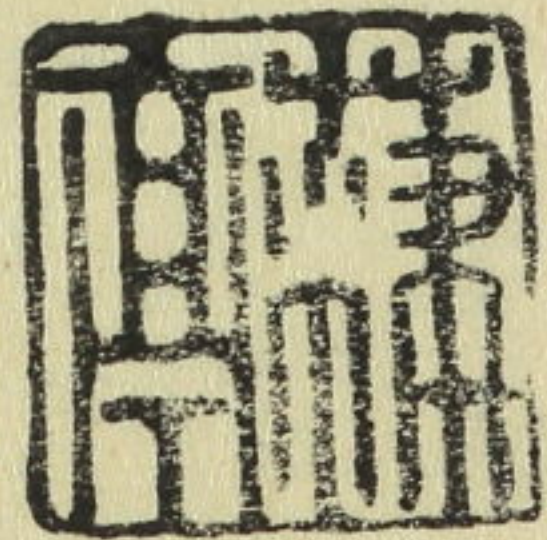
土丸
 猫懐
 斗文
 賀瑞
 柳女
 霞吹
 蕪村
 龍眠
 卷里
 阿兼
 買明

木乃竹の雪ふくもらんてくくく
 四布五布あけくれぬのうらんか
 ありしやらけの枝をばらけり
 中へはし冬つらふふあゆや
 賣してしてひらつたつたつた
 けいふふりして様ふして居賣
 舟の舟と雪舟の舟と里續
 休棠乃又株のまをぬりふ
 や一の根のほつて流せ芥根も
 ありてあらぬふふふふふふ
 白竹や雪けりすくくく
 旨原
 存義
 三蝶
 漁焉
 来雨
 曲室
 芦官
 来之
 盛住
 閑し
 嫩州

其書二十

夏腐沈在るるれらやきり今佛
 一海一せあふくくくくく
 くれららの根ちり葉けりや雪
 ありてう今あけ縁乃まゆ
 ありてしらふふふふふふ
 存義のさつふ田今の流ゆ
 ありてふふふふふふふふ
 ありてきぬ乃梅や大さつ
 ありてしししししししし
 ありてふふふふふふふふ
 早子のさくくくくくく
 有種
 暮牛
 麩白
 隨古
 必化
 多少
 移竹
 竹護
 子史

其由もてついでにせむ言ひつゝふつとて
 むしてゑのふら梅路希因のまの世をふりて
 向乃酒やうとつ場のゆくをせりまもして
 ありとて且よ且よと懐かして
 おつと軒端にちうに花苞をうらやうと
 風乃舟のれしうまゑて其まよひの
 うとれ窓にけり入侍もあつたの
 乃はの十一と来丈入書山



井五月さかしのくまのまゝ
まろんのまゝさかしのまゝ
町満しさかしのまゝ
くら教さかしのまゝ
是れの新くまのまゝ
毫初乃灯のまゝ
新のつり内さかしのまゝ
うゝまゝさかしのまゝ
浜士人のまゝさかしのまゝ
小後まゝさかしのまゝ
久吉のまゝさかしのまゝ

董 南 董 南 董 南 董 南 董 南 董 南 董 南

肌足り成りたる傾城
川の流るる流るる流るる
七りふ流るるそのまゝ
素乃う遠の矢争い
力とまゝ流るる
うり花のまゝ
酒乃待たず濃株と名
いつのまゝ冠者のまゝ
と一節まゝ
まゝ植ん田のまゝ
行りまゝ

董 南 董 南 董 南 董 南 董 南 董 南 董 南

このまゝも正八橋と岡うゝふ 董
浜乃新りれ蘇もれ其る
らゝゝゝゝゝの記よ懐ん
名何るゝくともあ乃ま 南

春三月於高子今興行

山等の地ゆるゝあて壘うふ 九湖
舟ちきりゝゝ直れま凡 キ董
しらくの歌のまゝゝうらふ 路叟
杉の姿乃白ひゆうゝ一 万容
根々門の流ゝゝ夏の日 嵐甲

あけ 四

ウ 固乃もゝうしろうてくむ 芦角
小まゝゝ新乃瓦のまゝゝゝ 雄尚
昼うゝゝゝゝの違ゝゝ 湖
久津よそ廊のまゝゝゝ キ
うらゝゝゝゝのゝゝゝ 甲
つれしゝゝゝゝと抱ゝゝ 容
あゝゝゝゝゝゝゝゝ 叟
まゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 角
乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ 尚
桑柘中井田と衣ふ磯山 湖
腹と減ゝゝゝゝゝゝ キ

夏卯月初院時會

灰汁桶の梅も入らんころよ

魚赤

垣乃あまふさひるやうら

几童

三のうれ駒牽つる猿ふち

上九更

梁凡

角力うへ呼んでんきこのお

竹裏

中ねも十らあやりの昼の月

春蛙

隣子ゆわい蘭のあちく

桃牛

勅定の撰集半成就し

布立

睡りくは白髪ひし

赤

花あけそ若酒の料ね

童

石まじしと夕くら

凡

あり六

着つげぬ力乃重ら長堤

裡

我うもふううあけ

春

書さ乃らうもま

牛

裏ハ徳左ハゆゆ

立

梵通子て鶴の眞菊

赤

袿子一丸

裡

こくし月もあ

立

あま

凡

傳るは

春

伝名うて

牛

月と

凡

干編乃市とや火送る風
 董
 惟子の棚もあつる中の子
 裡
 うらん下駝くく女もかり
 赤
 けつけつ不而月もあき燕の園
 董
 猶しもゆつむ断念入中
 裡
 後くくもなかり別する田舎者
 立
 美くくくにんねるる意乃葦下
 氏
 火の傳の小使しけさおまの月
 牛
 着海さくくくくくくくく
 春
 瓶ふ入祚酒とあつふ下下
 赤
 腕くくくく疝氣引はる
 立

新の雪かきあがりくる春
 春
 柔養乃餅と炊くくん
 牛
 若くくくくくくくくく
 裡
 うくくくくくくくくく
 氏

四季混雑

不二ひらく埋くのくくくくく
 蕪村
 蜂ハ魚の蛇の傍るるまふふ
 九湖
 ちけけのやとけけり福乃夢
 魚赤
 ちけけのちけけりにちけけ涼門
 竹裡
 柳くくくくくくくくく
 万容

等乃隣人... 異國の僧も... 解て... 一類...
 子... 嵐甲... キ董... 路曳... 芦角... 布立... 龜公... 雄尚... 梁氏... 馬南...
 納味

三つ... 酒... 春... 春の... 鳥... 自...
 子... 嵐甲... キ董... 路曳... 芦角... 布立... 龜公... 雄尚... 梁氏... 馬南...

夜露の楊をさうりけさの秋 蘇我一

千一解日

そなたに 弁持さうもさうり切 仙臺 文芝

道の露も秋乃白のやさきの露 信天 吞候

其中にひらくさうもさうり切 大坂 舊國

初まらうさうもさうり切 伊勢 宗亮

葉さうもさうり切 首尾

いささか秋乃白のや 花丸

さうもさうり切 故産

夜露の楊のさうり切 國終

初まらうさうり切 素後

くさの月さうり切 桂舟

田さうり切 茶丸

弁さうり切 羅父

題同居

初まらうさうり切 櫻良

くさの月さうり切 暁臺

夜露の楊のさうり切 仙臺

そなたに 几童

初まらうさうり切 馬南

くさの月さうり切 花山

荷代や 籠子の けりふりふり 無村

ふりや 暗がり 七地 鳳背

日の 湯りて 里の 林の 杉の 木 体布

ちる伊石味因男 句ちやと回

あさゆや 餅も 団 加高 半捨

けり 六尺 けり 木の 月 世園

へも 高破 けり 田の 餅 五橋

へも 高破 けり 田の 餅 布舟

尾上様

けり 馬 けり 馬 けり 馬 馬

ふり 結城 鞆 雁 けり 雁 けり 雁 雁

閑の けり 茶 けり 茶 けり 茶 茶

今 けり 存 けり 存 けり 存 存

同姓嫌とてしちけり改めし

薩音といつとり余日孫孫も

音ありいふありとてそけりけり

あ 媛 けり 媛 けり 媛 けり 媛

五 薩 加 音 木 音 垣 音 流 音 酒 音 と 音 賣 音 セ 音 けり 音

あ キ けり 董 けり 董 けり 董 けり 董

力 素 入 由 けり 由 けり 由 けり 由 けり 由

あ 五 けり 丸 けり 丸 けり 丸 けり 丸

膝 跨 の 仙 けり 仙 けり 仙 けり 仙 けり 仙

舟のきりぎりすのこゝろに牡丹の
 岸や舟のきりぎりすのこゝろに
 白鳥のきりぎりすのこゝろに
 福のきりぎりすのこゝろに
 客僧よ宵のきりぎりすのこゝろに
 野路のきりぎりすのこゝろに

管鳥
 文皮
 徳圃
 舞岡
 明五

春の夜更けの月をみれば

春師

春夏秋

帆とくさくさのこゝろに

浪花 一鼠

舟のきりぎりすのこゝろに

舟のきりぎりすのこゝろに

明十三

九月十三夜

はらけの面や月乃の瘦

牡丹をてみれば二三日

本槿も花もあはれの一葉

よたよたのこゝろに

秋情と一葉のこゝろに

七粒の花のこゝろに

新あやめをみれば

白梨もあはれ

疎のよさをみれば

押して地元の

蕪村
 木園
 大魯
 雄山
 羅川
 熊風
 一鼠

動るぬいそんしこうちけりふ
 右廠
 蟬のまに人も響くや鳥の境よ
 寸馬
 月ころのすを隔るる鳥よ
 龜友
 旅人乃互よ名をうたはさる
 咲我
 入相はくぬそまゆや三井の杖
 入江
 や入乃思ふはまき中納言
 魯文
 山ゆや谷一海乃よちのゆる
 五泉
 風折くまひし大なるるる
 生佛
 不さるそくやつりけり
 魚波
 浪伸ふりくもさるる
 二柳
 葦一乃思ふはまき中納言
 一嵐

あけし

しんまふからりし舟や夕雲
 赤羽
 傘のりしりきもむんのまきなり
 雄山
 峰よりふ峰もまきや女月
 五束
 てら平に筆ひやし秋の松
 見道
 人拂乃るら澄るやまけ風
 二柳
 ころよに敵のほもと通りぐり
 几童
 秋のまや母つづるは色は原
 但馬
 大風のちる月をわや鹿の夢
 寒秀
 志るまけ我太弁乃思ふ
 直生
 松一里帰政名きりとるふ
 寒水

四天王寺

未束紀子ありやほせの竹を

三四

浪華地

いそ美しき夢こころや西の海

一音

果ありやかくれかたりも啼蛙

曉堂

中しにこそもよきふねのるね

橋良

あまのふもれもみゆ 女希と

夢太

こころ岡崎のよきまをたひて

此二句とさし

演道やおの中より緑くみ

蝶夢

三條へきてしそくくみおあき

ひしらのおあきしと

例のこころをきりとありしよ
真卿といつる歌を借りて

竹急くあきかたもれお入る

ル童

おろし信託ありあのそり

寺ありし小窓とついでに歌うも

舊国

法橋や街及中へおとと

蝶夢

らふよせ乃頭中しそりふ風流
とくあり合あるれ席を回す
も合ありあき人のうらみ
三ふし 四章とついでに

津よのそりしと

移竹

ひのれあきしと

太後

耕より馬ありしと

呂岐

ナ
 ふとこゝろわくわくはりしうら
 残た乃痘氣つさるまゆ花
 りそのひびくさるん先つさり
 古あ乃ひつとあしぬ先痛し
 小社のわしし乃付いてねへる
 とうりたよと俗師さる先とも
 狗親し一奥のあつるあつるよ
 まつ良の麻あくさやと初良に
 かくたふと禱つてさるういへ
 推の本も月降れと成ふたり
 敵宮さくくち後しはる

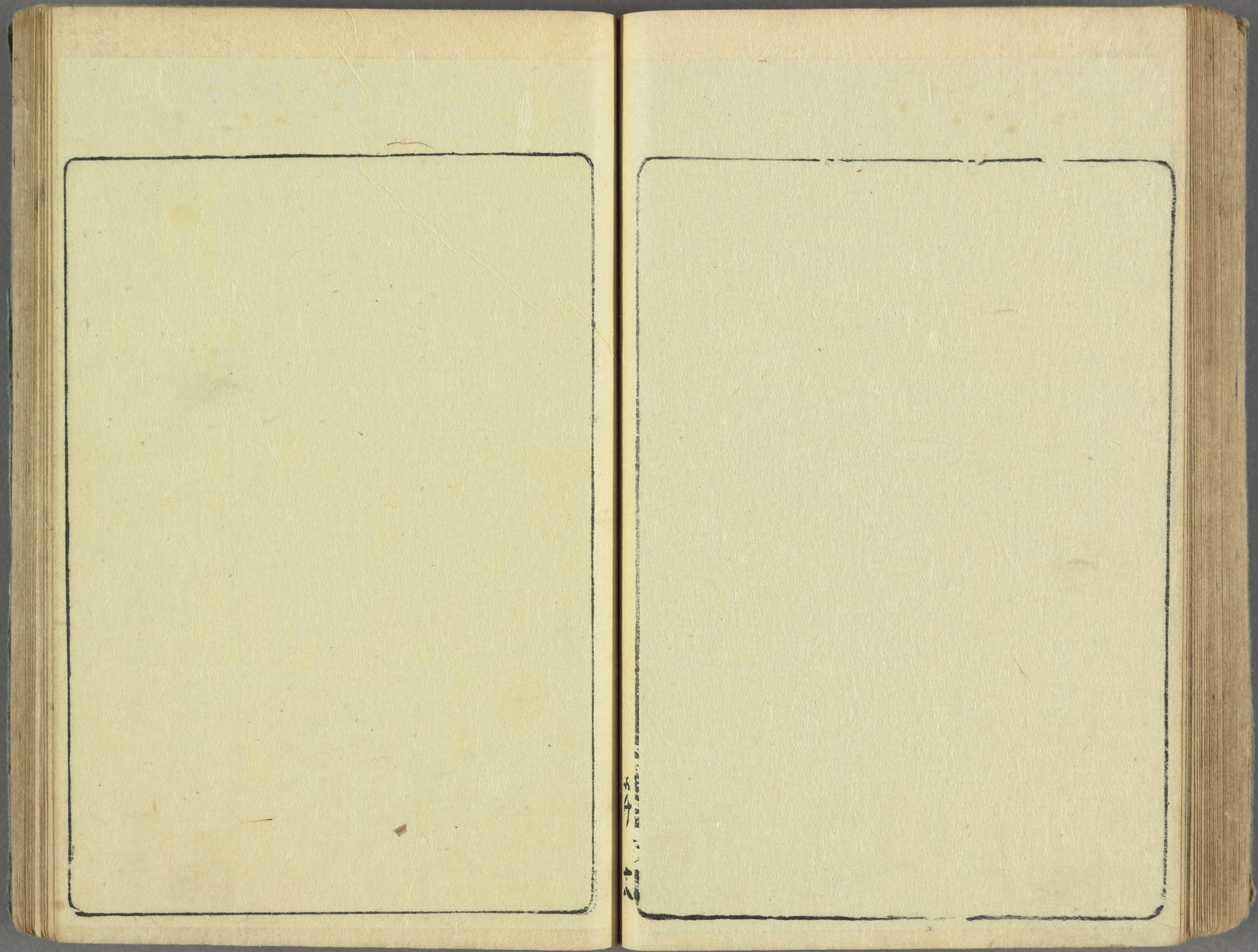
董、村、董、村、董、村、董、村

ちけり十七

ウ
 いてさういひさけの酒とあし
提器
 りしあきこくしちうさるやある
 くと獨りほ作あるあつと梅を
 ちうし降へくせうさるね
 開れし考ふとせりかたうん
 ちかさるさるね入 敵
 ちりうあさ舖の料たもむのめ
 せふのふり乃ちうさるむま

董、董、董、董、董、董、董、董

執筆



14

久乃小刺よ川之戸柿乃古らふ乃古を
きりしゆらわし作しやんもりの人れは
ももあまは鶴をとりりあをせよとあう
らした此通と歌しきり鶴仙あうりゆき
甘み

昆修 鶴仙庵 蕪村と作

四歌仙其一

蕪村
舟きこて者ともわくの二日月
純乃乃櫻様一歩一愛
貫之の娘ひきなき涙あわや
半郭一やりふ乃ふりハ
こころの法号を申あや
あまもいし乃まねをい家
ゆも路中あせうそ古大桶
村 董 山 村 良 岸山 几董 櫻良

あきせー 蓮いりぬてふるき
小高まてやまのたつら
さろきらせはふま家 縣女
さろき身乃幸津女を補せられ
八重のらくく乃 是る心 一序
夫と負一男鹿きくゆとまむゆ
まろきせくあ家乃乃ふる
入籠乃酒のつりーの配ふあひぬ
五人の殺うらやうせしり
潘仲のま田乃移流口わよ記
まろきちのまひー汁乃白雲

良 董 山 村 董 良 村 董 良 村 董

むろえいゑ乃ほき笑のこり
まの佛尸と死ぬるうり
我ら一序幸れらるゝのわで
近うる落乃初らうく
残らうて登上よ初と歌く
灯とお出る女 五鹿
まの装一ちらくしめる夫の雪
う訃まの負たて存ぬ追
日やの田もこと一の宿の立仲
ま乃信とまへる 月
小高人休ふらよ志よ

良 村 董 良 董 村 良 董 村 良 董 村 良 董

相傘せうと煙にとつた
いしんも今もつらぬ垂れや
何由流そ秘つて見えさる
氣深乃花みゆやる夕るき
藤一志加人の山あはきん
董山村良董

其二

白菊に色ゆるりさるる
浜そりゆつりさるる月影
借馬に杖を添へくささるり
花酒ありや帰乃中々
嵐山
儿董
榎良
蕪村

小唄きし羽キと燭乃二詩
ふこひ乃青燈おちりつ
わくしきし四位と成きまはしを
群との君ろ色にさつさぬ
中垣乃藤子に蠅の二つ三つ
ちうくも林乃さるる鳴る
ふた僧と女せしらりさつさ
戎乃丸やのさつさるる
雪のしきさるる入るる意の月
花枝お露入るるあはれ
あひ出さるるあはれさるる牛一
董村山良村董山良村董

不^レ一^レら^レも^レつ^レた^レ彦^レ祐^レま^レの^レも
 せ^レつ^レに^レ花^レ一^レち^レら^レふ^レら^レめ^レし
 む^レた^レれ^レて^レや^レ言^レま^レた^レら^レり
 ま^レの^レ何^レも^レ呉^レ國^レの^レ貢^レ物^レま^レき^レぬ
 鼻^レへ^レあ^レく^レる^レ者^レを^レ老^レら^レず^レん
 人^レの^レ何^レも^レい^レふ^レら^レぬ^レお^レも^レい
 小^レ社^レう^レ家^レと^レも^レを^レね^レま^レり
 精^レ進^レの^レゆ^レり^レ佛^レの^レま^レり^レも
 乃^レ切^レら^レき^レ牡丹^レ二^レも^レや
 歌^レ陣^レの^レわ^レず^レの^レま^レめ^レと^レ望^レま^レす
 其^レの^レ光^レ乃^レ曉^レら^レう^レく^レも

山 良 董 村 山 良 董 山 村 董 良 董

一夜
 九

今^レへ^レと^レし^レ舟^レ出^レ靈^レや^レ失^レせ^レら^レん
 こ^レら^レう^レれ^レと^レし^レ太^レ刀^レと^レつ^レく^レく
 此^レこ^レら^レう^レれ^レか^レた^レは^レな^レさ^レる^レ月^レふ^レれ^レや
 師^レ乃^レ妻^レと^レし^レこ^レら^レう^レの^レ秋
 吟^レ乃^レ百^レ里^レ石^レ一^レ伝^レの^レ梅^レと
 得^レ深^レ仕^レ舞^レと^レし^レう^レの^レあ^レま^レん
 終^レつ^レて^レし^レ火^レの^レ終^レり^レと^レお^レも^レい
 花^レ石^レ言^レ春^レ深^レよ^レ 伸^レ
 人^レ老^レぬ^レ人^レ又^レあ^レと^レ老^レと^レ呼^レ
 泥^レり^レ尾^レと^レ引^レ龜^レの^レや^レん^レよ

村 董 良 村 山 良 董 村 董 良 村 良

其三

戀くこて柳遠の舟はうね 几董

離くやと又塔とわ州 燕村

のちやふ菴ひらとを住れ 嵐山

木乃乃とては乃そ瘼あふ 樗良

うたやふ夫へうた七りの月 董

は乃乃選のゆはれ道く 山

古使ねのちたふ縁つれ 村

さききりつちりあさふの 董

あさけやや虫の鬼を連れつ 良

まじりて序終るよもはる 村

風の夕ややと初ねの鐘 山

羽垂乃乃巻の磯へ着る 良

半弓乃乃あどり流るふ池へ 董

官務の行儀やとれを 山

垣越へて麦やとて榎あふ 村

梅乃乃もさよよの白く 董

杖尾の扇をさしとて 良

ひたり音きくとちやとて 村

つげ川のすもむの入子のり 山

名の橋一きらくつとて 良

さる部のおうとて長も焼く 董

良家の思にかのうたし
 此頃乃酒の齒ふむ旅と
 尾花うむや乃名へ火と
 山賊乃月夜へ塚とあそ
 ころや虎の虎吼る
 ね乃さうさうより
 末さ半一羊さう
 者さく人乃松明
 尾さおよ半の痛
 変化退治乃あとの
 良村董良村董良村董良村董良村董

一夜七

雫乃あの中門をひき
 竹のいさなやむれ
 舟のれはる花見
 まさしとほるけ
 良村董

其四

花さうさう
 やうさう
 宿新乃
 院階さう
 継弁に十三
 橋良
 嵐山
 蕪村
 八董
 山

鹽とあつる 門口乃 半
 いふふじし 旅乃 市俵と連る
 志の序乃 ち若乃 露うつく
 母とふる くらに 枯る 枯一本
 画具の血 一 裾引 子引
 かつらぬ かけ中し じ焼く
 母とふる 一 三の 一 育れ 方の 月
 と加茂乃 ちひや ちひや ちひや
 花の中ふる 鹿 意の ちひや
 白髪乃 被う ちひや ちひや
 ちひや ちひや 依の 社 無月 ありて

良 董 村 山 董 村 山 良 村 董 良 山 董 村 山 良 董 村

一夜

ちひや ちひや ちひや ちひや
 梳 梳 ちん と ちひや ちひや 乃 ちひや
 素 園子 三日の 糧と ちひや ちひや
 遊 女と 隠る ちひや ちひや ちひや
 藏 之の ちひや ちひや ちひや ちひや
 ちひや ちひや ちひや ちひや ちひや
 ちひや ちひや ちひや ちひや ちひや
 新 聖 靈の 給仕 ちひや ちひや
 徒 信 衣 乃 ちひや ちひや ちひや
 月と 信乃 旅の ちひや ちひや
 世の ちひや ちひや ちひや ちひや

良 董 村 山 董 村 山 良 村 董 良 山 董 村

頭ヲ井もくくみゆるくもくよ 村
 根乃採にもちかきと送らるよ 良
 ちけしよのれ群乃もる 董
 のくさふ鳥りしもたの白く 村
 母乃別「娘」のわくもくん 良
 峰「鳥」我もきあふ乃あふん 董
 くれの街と水たうれま 良
 是よりゆすけし「横」す保あ 村
 とまらの膳もましくま 執筆

安永癸巳九月廿九日

一夜九

郭より勝具をくれの鬼貫り養まらん一やう
 きらぬ〜
 ち〜
 け〜
 花ら〜
 一〜
 在再〜
 ち〜
 老の〜
 ち〜

わぶせしつひねりてせしむるもあたらけらぬいよほ
 淋瀝しつてやが乃一亭勝とさゆし言がり
 一向と吐野瀟湘尾とも一船と煙るるらら
 するまの二子才二才甲つつけぬさう
 やうに二十六句にそらあつてふらつてのほ
 に所へつたもあつて題ありてそら
 懐乃とて謝とてつて

壬寅年一月

無村減口

一夜十

花筏帖

浦里のらくく笑々り海苔の味 大石 土川
 花とらくくさう十八九 浪花 雄山
 お乃の海まうらむあやふし 延年
 着海巾くもふらけ 大和 河来
 くまきりあはれと仕舞ふ 大石 佳則
 さうけむらくく 胡柳
 海くく 野島
 さのなま 東暗
 炭く 路景

家任家より花よ積二百ヤ如水
 五よわいのよ一樹のさく大和皆明
 伴をよ帰る月夜の花うめ 正巴
 つよむむらんわいむちるま富 湖富
 月のよ花あちりしり十六う光
 まあしきさちる花の竹 大士喬
 舟りし花さき油に 我則
 花よとて帰るうしろ花舞月 熊二
 来うしきふさちる花さく 佳棠
 柳をよのたよて拂ふ花 吾琴
 花より花さくさくさく 青荷

一夜 土

花より花さくさくさく 古好
 さくさくさくさくさく 女 ちくの
 けりまて遠巡りさくさく 金算
 さくさくさくさくさく 春波
 ちりりり月夜花雪のさく 心頭
 伴をよふ花さくさくさく 張 張獅
 さくさくのくさくさく 女 小いと
 さくさくさくさくさく 菅鳥
 さくさくさくさくさく 儿董
 さくさくさくさくさく 松化
 さくさくさくさくさく 雪居

取さくくふ集を追入 磔う那 是岸
 都く乃男く作してさくくが 舞詞
 さくく笑中や其まう飯くより 宮山呼
 中ふいぬぬ人けおひくはくく物 維駒
 老てれはくく花くくさつれたる 柳女
 取さくくや橙ちりきまうく 早公 桃葉
 涌流乃くくこくぬくくふさくく 附鳳
 舟ちくく入日乃ふのけくく 大石 曾兩
 持くく花乃棒と出 遊 更
 様うりうの本これ本乃一様 まご女
 舟ちくく遠山さくく見けり 香獅

一夜 十一

おのりやむくく真ある南島のむ 徳野
 きのしちりくくちりひくくさくく 文皮
 中くく雪くく花より山けくく 女 石松
 花くくまてし中室とちる中首月花 十六 百樓
 どのせくく入ねは内乃夕トく 紫洞
 くく山や花の終ふ口乃さくく 天石 士巧
 けくく信流は新まふくく林 菊十
 ちりくくにくけくく不のけくく 慶子
 花の根とくく引くくた着く 巴江
 岩水くくふの布とやけくく 雷子
 花くくあつたくくさくく 五雲

むけろやさくしりやいり水 之兮
 忌崎 春洲
 正名 秋来
 正名 豊
 正名 東瓦
 正名 眠獅
 正名 自笑
 正名 三角
 正名 和流
 早報乃春にふりや秘さく
 山おろしきくもまや花の宿
 坂くふ涼及び花をたまへる
 白雲の根とまじりたりくさ苗
 疑ふまじりたるはくさ笑にたり 一
 正名 来屯
 正名 里由
 正名 残のさくしりやいり水
 正名 二二 編 考
 正名 一 夜 十

良き乃居るやいり花のむく、 清夫
 さくしりやいり花のむく、 百池
 日わくやいり花のむく、 公遠
 先きよきと及に志のつやむ乃山 文長
 新産もやいり花のむく、 婆雪
 途にゆきやいり花のむく、 存周
 正名 月居
 正名 正名
 正名 通介
 正名 梅幸
 正名 布舟
 正名 高寺

こころこころし
形海も悟のらふまむ
さうしらねたけのい
しれめとる

けしきふて下志傳の流伝し
佐竹の作家ふありし流伝の流伝
ふんねらねたふとやその一ふとふ
うしきと鳥尾相のしきとり
一曲のふきもまよと艶もま

右の又の甚あり鳥尾考にまじ
能海の一ぬ起死ともうしきた

みのれうこころし一様酒ふし
おねまこころしとむららとせんふり
仕舞の句とつらきむくも
こころしとねあ伏伝おんま
音も仕こころしそはのそらふ
こころしとねあ一とね一古市
河指是今の中らうとねあ
こころしとねあ一とね一
こころしとねあ一とね一
に地終乃やまこころし

ちとぎんいふ鬼村もたふさ
かしくもかまららきせし
おと徳乃らふらふらたに
うか通辞乃種之は
美給千凡白ひのこふ
花うやしらぬる
花秋乃ゆらき
変化趣うけ
ららきのら
呉楚乃ほ

宗因
蕪村
儿董
百池
佳棠
金萱
湖柳
湖富
田福
我則

一夜 七

琴と枯野のまよこころ
船のまらへ大いに
春よ午のぬぬの
柳は千りふれ
中車はれ
紙のくま
こころふ
古乃林の
形まの
まうちく
こころふ

之兮
是若
熊三
正巳
維駒
吾琴
月居
爰鳥
紫印
銀獅
自笑

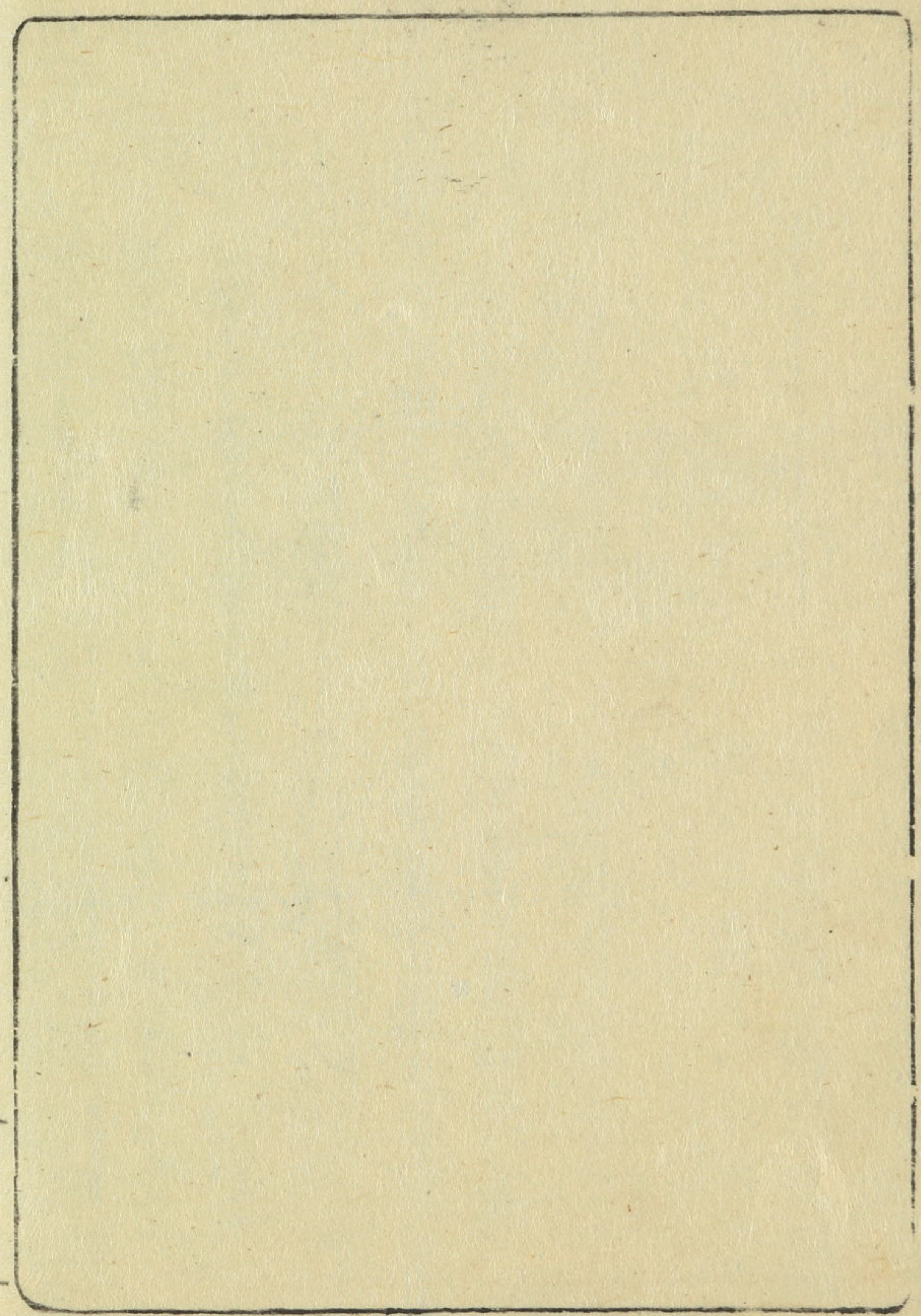
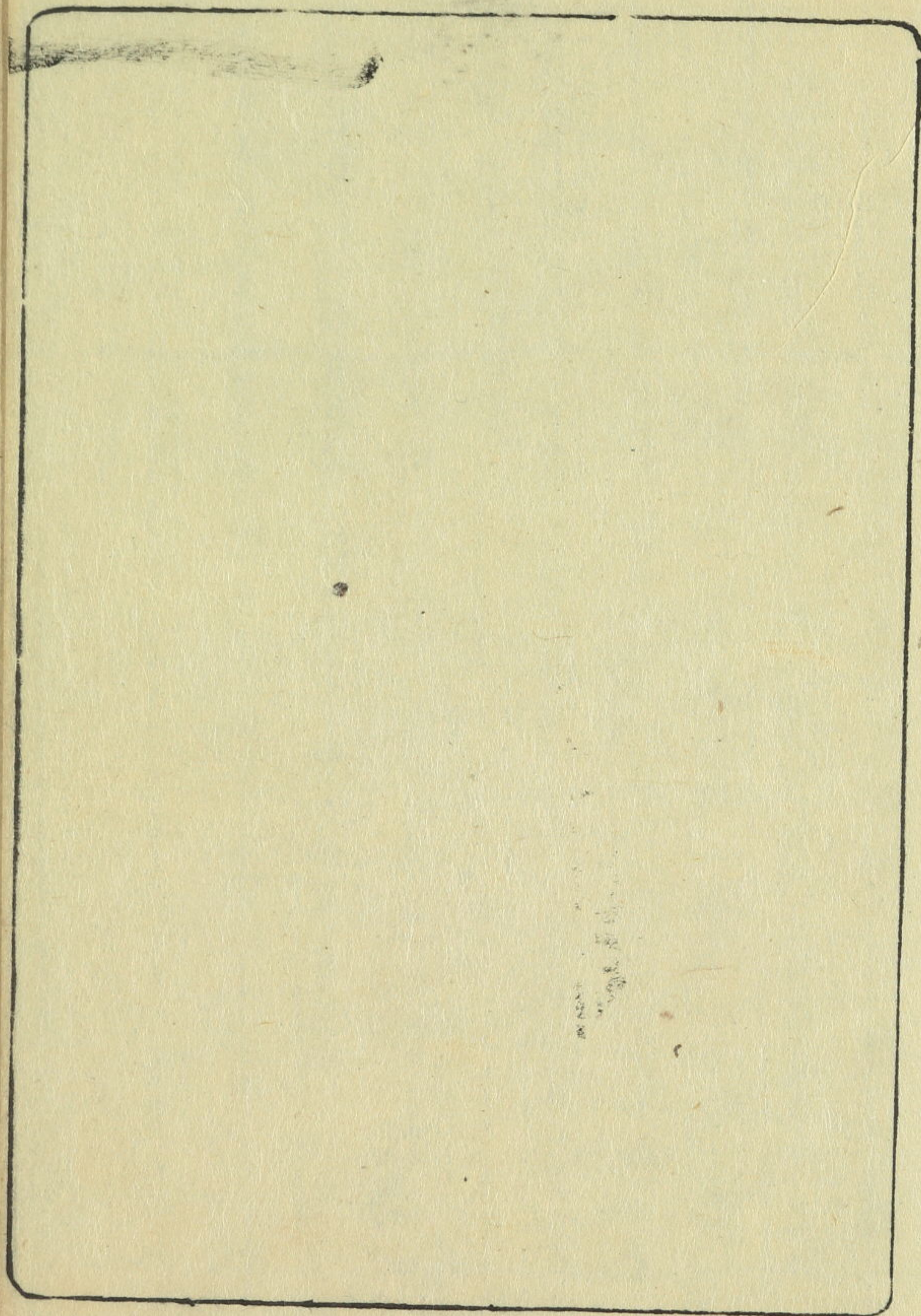
うーや 鏡乃ききと 碇 刻系
遠くへそしうり 舟乃良とをえらん
ト部乃家こほぐ子こぐり
やうれ 舟乃指あやまてるふ豆 候
そとへんせと きふうけり
秋出さる 杖と 隙きに 投いでし
之ま 船乃 離の 下と 美
はらしとあふの 中ふ 船の 月
うれ や 葉と 葉は 由さる
花 籠へ 肩のよ 拭 落うく 葉
うーいふいふらん ちり乃 ぬ

佳棠 春坡 几董 雪居 老雨 蕪村 百地 魚赤 春坡 松化

一夜 次

交 周もききん 入 舟乃の ちれと
ち 香 渡もし ぶん けり
俯あつて けり の 木 志 必 の ち
うーいふいふらん ちり乃 ぬ

蕪村 率町 道立 吞柳



一
表
十九

夢も移もあらくはきかぬ
崇^{タカ}なり田中の小社柿^{カキ}を
脱^{ヌケ}りてまぢり公^{キミ}も魚色
あふ^{あふ}したるに張^{ハシ}筆^{ヒツ}を^をけ^けて
ま^まら^らか^かや^やぬ^ぬま^まら^られ^れり^り火

董、村董村

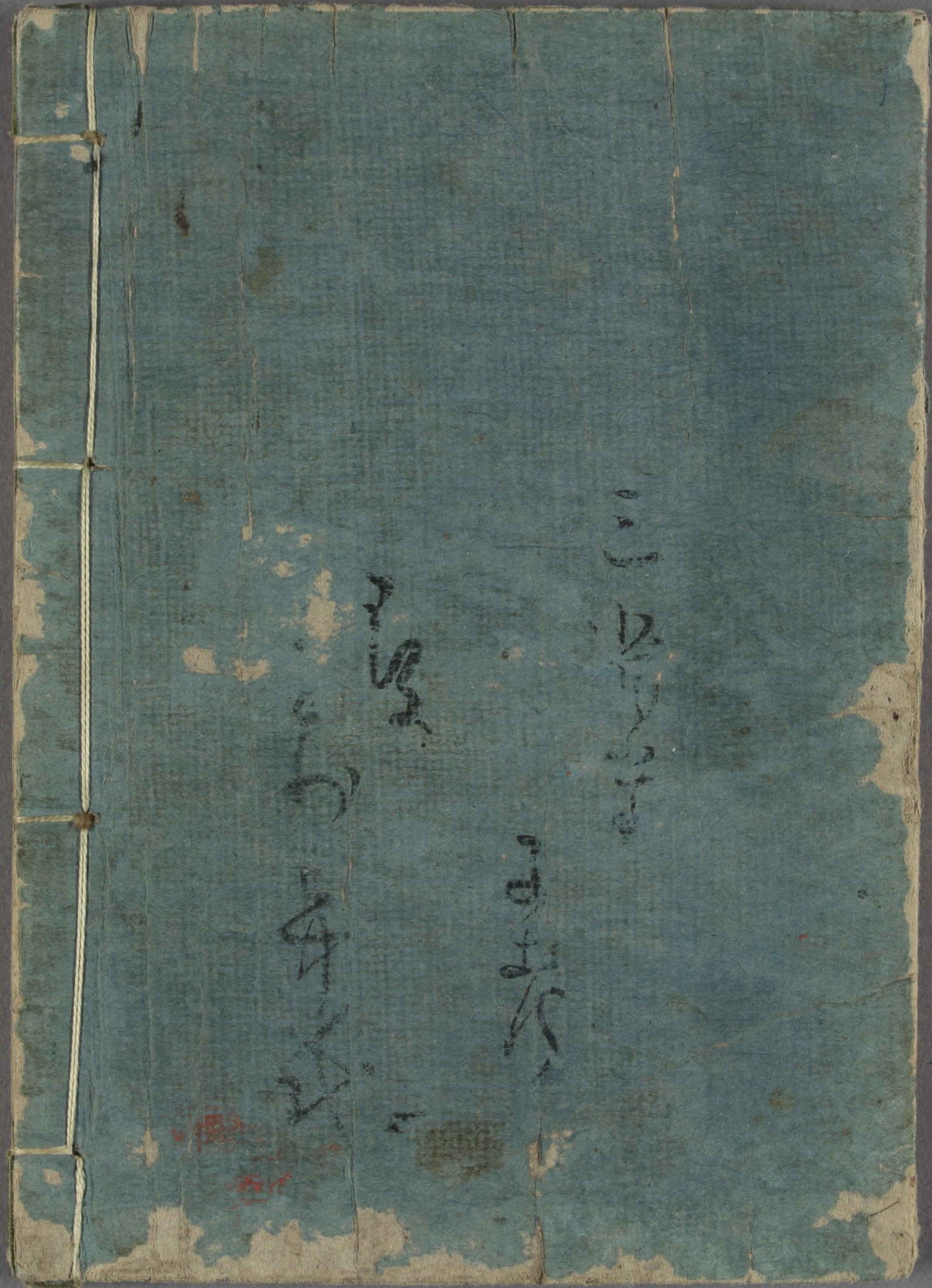
冬^{フユ}も^もら^ら月^{ツキ}骨^{ツネ}籠^{カゴ}り^り入^イれ^れか
此^{コノ}句^ク老^{ラウ}杜^トの^のま^まま^まよ^よ腸^{チウ}
五^イ里^リふ^ふ一^{イチ}舎^{シャ}う^うこ^こは^は使^シ者^{シャ}と^と言^{イハ}ふ^ふ
ま^まら^らく^く休^ユら^らぬ^ぬあ^あら^らく^く井^イの^の水^{ミヅ}

几董、蕪村
董

ト五

ま^まら^らく^く歌^カ雀^{セキ}入^イる^る新^{ニホ}く^くお^おく^くん
ま^まら^らく^くく^くま^まら^らぬ^ぬま^まら^らぬ^ぬ
二^ニの^の危^イ乃^ノ迫^セき^きま^まら^らぬ^ぬま^まら^らぬ^ぬ
七^シつ^つ路^ロり^り入^イり^り敷^シく^くま^ま
鳥^{トリ}の^の羽^ハふ^ふ敷^シの^の根^ネや^やま^まら^らぬ^ぬ
弾^{ヒキ}く^くま^まら^らぬ^ぬま^まら^らぬ^ぬ
女^メ瓶^{ビン}の^の清^{スガ}く^くま^まら^らぬ^ぬ
森^{モリ}の^の清^{スガ}く^くま^まら^らぬ^ぬ
ま^まら^らく^く代^{ダイ}り^りま^まら^らぬ^ぬ
出^デぬ^ぬく^くま^まら^らぬ^ぬ
月^{ツキ}ま^まら^らく^く此^{コノ}の^のま^まら^らぬ^ぬ

村董、村董村董
董、村董村董
董、村董村董
董、村董村董
董、村董村董
董、村董村董
董、村董村董
董、村董村董



三ノ巻

新編